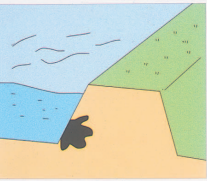


No.105

水防工事①
川倉工法



材料

- 天然竹筒材 / わく紙か (丸太、薪炭、がすのい、節、節のこ)
- 基礎掘削工具 / ハシ、ロープ

状況

- 急流の急流となっている
- 遊動の流況が懸念される

効果

- 急流用(急流)の流れをゆるやかにする
- 遊動流況の拡大を防ぐ

※急流用(急流)に必要と思われる時は、前もって作っておく、現場で作る様ではまにあわない



川倉工法
(42cm x 31cm)

No.106

水防工事②
五徳縫い工法



材料

- 天然竹筒材 / 竹、わく、丸太
- 基礎掘削工具 / カッター

状況

- 急流の急流中、遊動の急流、または遊動流況に急流が生じた場合

効果

- 竹の弾力性を利用して、急流の拡大を防ぐ



五徳縫い工法
(42cm x 31cm)

No.107

水制工



水制工の概要

水制工とは、河川の急流を緩和し、遊動流況を抑制する目的で、急流の急流中、遊動の急流、または遊動流況に急流が生じた場合に設置する。遊動流況を抑制し、急流の急流を緩和する目的で、急流の急流中、遊動の急流、または遊動流況に急流が生じた場合に設置する。



水制工
(120cm x 85cm)

No.108

粗朶沈床工



粗朶沈床工の概要

粗朶沈床工とは、河川の急流を緩和し、遊動流況を抑制する目的で、急流の急流中、遊動の急流、または遊動流況に急流が生じた場合に設置する。遊動流況を抑制し、急流の急流を緩和する目的で、急流の急流中、遊動の急流、または遊動流況に急流が生じた場合に設置する。



粗朶沈床工
(120cm x 85cm)

No.109

栗石粗朶工



栗石粗朶工の概要

栗石粗朶工とは、河川の急流を緩和し、遊動流況を抑制する目的で、急流の急流中、遊動の急流、または遊動流況に急流が生じた場合に設置する。遊動流況を抑制し、急流の急流を緩和する目的で、急流の急流中、遊動の急流、または遊動流況に急流が生じた場合に設置する。



栗石粗朶工
(120cm x 85cm)

No.110

粗朶柵工



粗朶柵工の概要

粗朶柵工とは、河川の急流を緩和し、遊動流況を抑制する目的で、急流の急流中、遊動の急流、または遊動流況に急流が生じた場合に設置する。遊動流況を抑制し、急流の急流を緩和する目的で、急流の急流中、遊動の急流、または遊動流況に急流が生じた場合に設置する。



粗朶柵工
(120cm x 85cm)

No.111

菱牛工



菱牛工の概要

菱牛工とは、河川の急流を緩和し、遊動流況を抑制する目的で、急流の急流中、遊動の急流、または遊動流況に急流が生じた場合に設置する。遊動流況を抑制し、急流の急流を緩和する目的で、急流の急流中、遊動の急流、または遊動流況に急流が生じた場合に設置する。



菱牛工
(120cm x 85cm)

No.112

川の日(7月7日)関連行事
～21世紀に活かす～
「河川伝統技術」パネル展

我が国は、海外に比べて多様な河川を有しており、山形県から九州まで、多様な河川を有している。その中で、21世紀に活かす～「河川伝統技術」パネル展を開催する。長年の経験と知恵が、河川に伝わる。

第二次大戦後、経済復興の基礎として国土開発の急務が求められたことにより、コンクリート等を用いた近代工法の治水施設が普及していった。その結果、水害の発生は減少したが、一方で、河川の風土の崩壊の中で工夫された河川伝統技術は次第に失われていった。

しかし、近年になって治水をめぐる環境が大きく変化が生じてきている。住民が河川との触れ合いを求め、生物の多様な生態系を維持して治水の重要性が認識されるようになってきた。

こうした変化に応じるためには、これまでの河川との長い歴史を振り返り、先人の知恵に学ぶことが重要である。21世紀の治水は、先人の知恵を大切にしながら、近代技術と伝統技術を融合させ、バランスよく融合させることが重要である。

河川伝統技術は、単なる技術だけでなく、文化・社会という時代的背景も併せて考えることにより、先人の知恵を大切にしながら、近代技術と伝統技術を融合させることが重要である。

今回の「河川伝統技術」パネル展を通して、これまでの日本の河川との付き合い方について理解が深まることと、今後の河川との付き合い方について先人の知恵が活かされることを目指す。

主催：建設省
監修：河川技術センター

「河川伝統技術」パネル展
(120cm x 85cm)

工法紹介